



自衛隊栃木地方協力本部

栃木地本、災害派遣の激励品贈呈を支援 ～地域住民と自衛隊の橋渡しを担う～



ブリーフィングの様子（総務課長）

災害派遣活動の説明をする多田1尉

体験談等を話す隊員

この激励品贈呈は、宇都宮市内に所在する学校法人作新学院の学生（大・高・中・小学校・幼稚園生）の代表8名により、災害派遣活動を行って対し行われたものである。

当日は、作新学院の代表の教諭から挨拶があり、次いで栃木地本総務課長（濱田事務官）から、災害派遣活動に関するブリーフィングが行われた。その後、第102施設直接支援大隊第2直接支援隊長（多田1陸尉）より、現在実施している災害派遣活動について細部説明が行われた。また、実際に災害派遣から帰ってきた隊員、これから交代で災害派遣に行く隊員計6名が、それぞれの体験談などを話した。質疑応答では「被災された方たちは、どんな風にすごしていましたか?」「現地での活動時間はどれくらいでしたか?」など災害派遣に関する質問や「普段はどんな訓練をしていますか?」「どうやって体を鍛えているのですか?」など自衛官の普段の様子についても質問が続いた。また、「今までに参加した災害派遣にはどんな思いで参加しましたか?」という質問には、今まで出会った被災者の思いがこみ上げ、涙をこらえ回答する隊員もいた。

激励品として、4つの段ボール一杯に入ったカイロが贈られ、一つ一つにメッセージや絵が添えられていた。受け取った隊員は「たくさんさんのメッセージとてもうれしいです。頑張ります」と笑顔で答えていた。

栃木地本は「今後も、地域の団体への協力・交流を積極的に実施していくことで、自衛隊への理解と協力を促進し、地域住民と自衛隊の架け橋となつてゆく」としている。

自衛隊栃木地方協力本部（本部長 加藤 浩1陸佐）は、2月9日（金）宇都宮合同庁舎（宇都宮市）において、令和6年能登半島地震災害派遣隊員に対する激励品贈呈を支援した。



～地域住民と自衛隊の橋渡しを担う～



質疑応答の様子



慰問品を受け取る隊員



慰問品に、一つ一つにメッセージや絵が添えられている。